

3. 紹介「海外に学ぶ」:工業都市から欧州文化都市へ再生 Glasgow(スコットランド) その2 (Japa 理事 小畑きいち:青山学院大学元客員教授)

欧州文化都市へ

1980年代に、欧州文化都市(European City of Culture)(注:1999年より名称を欧州文化首都 European Capital of Culture に変更)制度が発足、文化面で欧州代表する都市を巡回で選び、文化都市開発の契機とするために1年間該当都市で文化事業イベントなどを開催する制度で、それまでアテネ、フィレンツェ、アムステルダム、ベルリン、パリなど文化的な都市が選定されていた。

これらの都市とまったくイメージの異なるグラスゴーが立候補した。この立候補は驚きを持って迎えられたが、文化創造運動への強い思いと努力の結果グラスゴーは、1990年に欧州文化都市に選定された。1990年のグラスゴーは、全欧州からの来訪者、アーティストを迎えフェスティバル・イベントなど数多く開催され、市民参加なども含む長期的なプログラム実施で、地域の活性化の大転換期とした。さらに地域の盛り上げの成功は多くの市民にグラスゴー住民としての誇りをもたらした。この選定によって文化創造都市としてグラスゴーのイメージの一新に大きく寄与した。

この成功は、他の欧州都市に驚きを与え、これ以降都市再生の模範例となった。グラスゴーの都市再生事業は続き、1990年は、Glasgow Royal Concert Hall を開設、同年には、英国の“UK City of Architecture and Design”に認証、1999年、中心街にある800m、幅員20mの緩やか傾斜するブキャナンストリートを歩行者専用道路に改修、坂と沿道商業の洒落た景観形成とし、さらにソーキホールストリートも遊歩道として整備し、1.3kmの歩行空間整備で楽しめる歩行回遊路の提供、2011年はプリツカー賞建築家であるザハ・ハジドによるリバーサイド博物館がクライド川沿い再開発地区に新たな観光スポットとして彩を添えた。



ロイヤルコンサートホール



ブキャナン・ストリート
(歩行者専用化)



リバーサイドミュージアム

この一連の文化創造化推進事業により、グラスゴーは「文化」による再生を果たし、英国内外における最初の都市再生の見本となり、他の都市の再生モデルと評価されるようになった。海外からの来訪者は年間400万人超、新産業の創造により雇用も創出され、グラスゴーの人口は再び増加し、都市再生に成功した。そして都市再生をさらに持続可能にするため、来訪者の視点だけに捉われず市民の観点から見た指標項目「The Glasgow Indicators」として「人口、経済参加、貧困、健康、社会資本、環境、コミュニティの安全、人生設計、文化的活力、協調性を有する生き方」など快適都市への項目も明示した。

2008年には、シティ・カウンスルが地元のアーティストを認可サポートし、数多く街角で見られるストリートアート(ミューラル:壁画)の場を壁画アーティストに与え、街を明るくかつ歩くことが楽しい景観を目指した。この結果、グラスゴー街路は現代を象徴しポップカルチャーの街としてのイメージも高め、若いアーティストの注目を浴びている。



市内を楽しく彩るストリートアート(Mural)

このような「欧州文化首都」プロジェクトを通じて、グラスゴー市は文化創造都市(Creative city)と認識されるに至った。この成功によって、後の Tony Blair 政権によるクリエイティブ産業の創出・育成のために関連する政策省庁の統合にも及んだ(現デジタル・文化・メディア・スポーツ省)。メディア・テクノロジー、ゲーム、デザイン、音楽、アートなどの振興分野として 13 分野が定義され、政策面にも影響し引き継がれ、一地方都市の成功が中央政府の政策までに及んだ。

再活性化したグラスゴーで、数多くの新ビジネスの創生、グラスゴーへ進出を目指す企業の増加、また若者などが勉学またクリエイターとして域外などから来訪・移住が促進され増加した。グラスゴーが“欧州文化都市”への立候補に際して、当時一笑ものであったが、1990 年に文化により都市再生のあり方に対して実証されたことで英国での文化創造都市のはじまりはグラスゴーとまで高く評価されるようになり、都市における文化の役割についての理解が高まった。

かつての衰退工業都市が、再生実施に向けて組織を再構成し、マーケティング手法を駆使し、既存の埋もれた文化資産の再評価、街構造・景観の改造・修景、荒廃した旧港湾・工業地域の文化施設・イベント会場への転換などの再開発プロジェクトによる文化創造による都市再生は、ナント、ビルバオなどへの都市再生への見本ともなった。グラスゴー市における基本理念は、「来訪者と住民の満足」にある。2013 年より、「Future City Glasgow」プロジェクトにより、産業振興など地域経済に供するために交通管制、犯罪防止、公共交通運営、スマート街灯システム、エネルギー管理など広範な分野に及ぶ計画により、スマートシティー化を促進している。

参考・出所:

- (1) <https://www.glasgow.gov.uk/> & <https://www.glasgow.gov.uk/cdp> City Development Plan
- (2) “Glasgow: The Socio-Spatial Development of the City”, Michael Pacione, University of Strathclyde 2015
- (3) “Deconstructing the City of Culture: The Long-term Cultural Legacies of Glasgow”, Beatriz Garcia, Urban Studies, 2005
- (4) “Cultural Policy as Urban Transformation? Critical Reflections on Glasgow, European City of Culture 1990”, Gerry Mooney, Open Univ. (Scotland), 2004